

三角形 OAB で、辺 OA を 2:1 に内分する点を L、辺 OB の中点を M、辺 AB を 2:3 に内分する点を N とする。線分 LM と ON の交点を P とする。 $\vec{a} = \vec{OA}$ 、 $\vec{b} = \vec{OB}$  とするとき、 $\vec{ON}$  と  $\vec{OP}$  を  $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$  を用いて表せ。

(18 琉球大 教育・農 5(3))

【答】  $\vec{ON} = \frac{3\vec{a} + 2\vec{b}}{5}$ 、 $\vec{OP} = \frac{6}{17}\vec{a} + \frac{4}{17}\vec{b}$

【解答】

N は線分 AB を 2:3 に内分する点であるから

$$\vec{ON} = \frac{3\vec{a} + 2\vec{b}}{5} \quad \dots\dots \text{(答)}$$

であり、P は直線 ON 上の点であるから、実数  $k$  を用いて

$$\vec{OP} = \frac{3}{5}k\vec{a} + \frac{2}{5}k\vec{b} \quad \dots\dots \text{①}$$

と表すことができる。

一方、P は直線 LM 上の点でもあるから、実数  $t$  を用いて

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= (1-t)\vec{OL} + t\vec{OM} \\ &= \frac{2}{3}(1-t)\vec{a} + \frac{1}{2}t\vec{b} \quad \dots\dots \text{②} \end{aligned}$$

と表すこともできる。

$\vec{a}$ 、 $\vec{b}$  は 1 次独立 ( $\vec{a} \neq \vec{0}$ 、 $\vec{b} \neq \vec{0}$ 、 $\vec{a} \not\parallel \vec{b}$ ) であるから、①、②を比較して

$$\begin{cases} \frac{3}{5}k = \frac{2}{3}(1-t) \\ \frac{2}{5}k = \frac{t}{2} \end{cases} \quad \therefore \begin{cases} 9k + 10t = 10 \\ 4k - 5t = 0 \end{cases}$$

が成り立つ。解くと

$$k = \frac{10}{17}, t = \frac{8}{17}$$

よって

$$\vec{OP} = \frac{6}{17}\vec{a} + \frac{4}{17}\vec{b} \quad \dots\dots \text{(答)}$$

である。

